

第1回栗東市地方創生懇談会議事要約

平成29年12月25日（月）午後3時50分～
栗東市役所2階 第1会議室

【出席者】

委員：新川会長、清水憲委員、小南委員、黒田委員、武村委員、森野委員、清水久委員
江竜委員、内記委員、山口委員

事務局：市長、副市長、市民政策部長、市民政策部政策監、総務部長、
福祉部長、子ども・健康部長、環境経済部長、建設部長、建設部技監、
教育部長、議会事務局長、元気創造政策課事務局担当

1. 開会

2. 委員の委嘱について

（省略）

3. 会長・会長代理の選任について

（省略）

会長：新川委員、会長代理：清水憲委員

4. 協議事項

（1）平成28年度 地方創生加速化交付金事業の効果検証について（資料1）

《資料説明（事務局）》

（省略）

《質疑応答》

委員

「栗東市シティセールス戦略推進事業」の事業内容に「市民参加型の魅力発信講座を開催」とあるが、具体的にはどのような内容で、事業費はどれくらいか？

事務局

「魅力発信塾」と題して、市の地域資源を発掘し、情報を発信していくことを目的とした講座を4回開催した。塾生として約30人の市民に参加していただいた。事業費は100万円程度。

引き続き今年度は栗東市をPRするためのCMを制作していただいている。

委員

どのような効果を見込まれているのか？

事務局

行政から一方的に情報を発信するのではなく、これまでとは違った市民目線での情報発信ができる。これによって、市のイメージアップや魅力発信につながると期待している。

会長

シティセールス戦略推進事業について、市を積極的にPRしていくための起爆剤として、まずはブランド認証とシティセールス活動認定の仕組みづくりに着手されたということなので、これから大きく展開して行ってほしい。

委員

忍者列車のラッピングについて、一日平均旅客乗客数が100人程度増えているとのことであるが、これを忍者列車の効果だといえるのか？例えば、聞き取りなどで調査をされているのか？

事務局

忍者列車については、何時ごろ、どこを走るのかといった問い合わせが多く、関心は高い。いかに手原駅で下車していただいて、観光に繋げていくのが課題となる。

聞き取り調査等は行っていないが、今後、しっかりと効果検証を行い、他の事例なども参考にしながら取り組んでいきたい。

会長

直接忍者と関係のない栗東市にどんな効果があるのか。また、乗降客数の増加が忍者列車によるものなのかといった検証をしっかりとしていく必要がある。

(2) 平成29年度 地方創生関連事業の進捗状況について (資料2)

《資料説明 (事務局)》

(省略)

《質疑応答》

委員

「棚田、農作業ボランティア活動事業」(P9)について、ボランティアの募集時期が12月や2月となっているが、そんな寒い時期に募集しても集まらないような気がする。また、進捗状況に4回で累計71人の参加とあるが、11月に農業委員会で遊休農地の調査を行った際には、草刈をされたような形跡はなかったが、具体的にどこかの草刈をされたのか？

事務局

ハーベストライン走井のイベント会場と駐車場の草刈や、農業用水の清掃などもしていただいた。

委員

こういう取り組みをされているのであれば、農業委員会へ報告していただけると調査の手間が省ける。

事務局

今後は情報提供をしっかりと行い、連携していきたい。

委員

「生活困窮者自立相談支援事業」(P6)について、最近、親の介護による無就労者の増加や、引きこもりによる親の負担増などの問題がある中で、どういう支援をされているのか？

事務局

困窮に陥った原因が様々であるが、就労が可能な人には経済振興労政課と連携し、面接の練習など、就労についての支援を行っている。

ただ、親が80歳で子が60歳などのケースでは就労といっても難しいので、介護や生活保護なども含めた中で取り組んでいる。

委員

介護については、国の方針として自宅介護の方に向かっていくが、やってみると大変な面がある。2人体制でするのであれば何とかなるが、独身の子どもさんも増えている中で、1人でやろうと思うと未就労になってしまう。そういう人にはどういう支援を行うのか？

事務局

それは就労支援ではなく介護の制度を利用しながらケアマネを中心に個々の支援を行うことになるが、確かに1人で介護するのは厳しいものがある。

会長

介護のケアマネさんと実状に合わせた介護計画を作成し、適切なサービスが受けられるよう取り組んでいただきたい。

委員

①「りっとうバル事業」(P1)について、成果指標が売り上げ金額になっているのに、進捗状況には売り上げ冊数が計上されているので、比較できるよう統一された方がいい。

②「特定検診・特定保健指導推進事業」(P 3)について、成果指標に「受診率を60%にする」とあるが、この60%の根拠はどこからきているのか？また、現状の受診状況はどれくらいか？

③「こんにちは赤ちゃん訪問事業」(P 4)について、「乳児家庭の孤立化を防ぎ」とあるが、対象がどれくらいあって、訪問を希望されている家庭はどれくらいあるのか？

④「潜在保育士の再就職支援事業」(P 5)について、保育士の資格をもっていながら働きたくても働けないという人を対象としているのか、それとも行政側の都合で、保育士不足を解消するために行っているのか、どういう目的で取り組んでいるのか？

⑤「英語指導助手派遣事業」(P 5)について、英語指導助手の派遣を行うことが、必ずしも小学生に対して効果があると言えるのか？

⑥「間伐材利用促進事業」(P 9)について、「間伐材10tを搬出し、再生の印刷用紙を購入する」とあるが、間伐材10tに対して、何箱の印刷用紙が作れるのか？

事務局

①「りっとうバル事業」(P 1)について、最終的には比較ができるよう成果指標の統一をさせていただきたい。

②「特定検診・特定保健指導推進事業」(P 3)について、60%の根拠は、栗東市の特保の実実施計画に上げられている目標値であり、国の方針や指針からきている。国は事業所での受診率などを基に設定されている。栗東市の受診率は30%程度となっている。

③「こんにちは赤ちゃん訪問事業」(P 4)について、昨年度は出生者数約900人に対して、570人が希望され訪問させていただいていた。

④「潜在保育士の再就職支援事業」(P 5)について、保育士の資格を取得してから1度も保育士として働いていない方や、離職されてから期間が空いている方などに対して、就労への不安を解消し、保育士を確保しようというもので、待機児童対策として取り組んでいる。

⑤「英語指導助手派遣事業」(P 5)について、子どもたちの意識改革だけでなく、教師がどう教えればいいのかといった勉強にもなる。また、指導要領の変更によって、英語の授業数が増加し、教師への負担が増えることに対応するという狙いもある。

⑥「間伐材利用促進事業」(P 9)について、間伐材10tから1000箱とれる。

委員

①「りっとうバル事業」(P 1)、「こんぜめぐりちゃんバス運行事業」(P 3)、「観光資源開発事業」(P 3)などの委託事業について、受託者が事業目的や趣旨をしっかりと理解して実施されているのか？

②「災害時非難行動要支援者登録事業」(P 3)について、行政だけが情報を把握していても災害時にすべての人を救助することはできないため、登録者数だけを増やしても全く意味がない。その情報をカミングアウトし、地域で助け合えるようにするこ

とが重要になってくる。そのためには、差別などの問題も懸念されるので難しいところもあるが、公表することの重要性や必要性を登録者に理解してもらうことにもっと努力すべきである。

事務局

①「観光資源開発事業」(P3)における秋祭りについては、今年が1年目ということもあり準備から運営に至るまで、課題や反省点も多いが、今後も市民の元気力が向上する祭りへと成長できるよう取り組んでいきたい。

②「災害時非難行動要支援者登録事業」(P3)について、守秘義務については、運用マニュアルに基づいているが、現在見直しを行っている。ご指摘いただいているように、登録者名簿の活用方法については、マニュアルを見直す中で整理をさせていただきたい。啓発については、危機管理などと連携しながら、効果的な方法を検討していく。

会長

それぞれの事業について、事業間の連携を図りながら進めていただき、これから下期や次年度に向けて各方面で工夫をしていただきたい。

5. その他

- ・次回会議の日程について

《資料説明(事務局)》

(省略)

次回会議の開催については、3月を考えていたが、先ほどの会議でご意見をいただいたことも踏まえて、再度調整をさせていただく。

※本日出し切れなかった意見については、別添ご意見シートにより提出をお願いしたい。

6. 閉会(副市長あいさつ)

栗東市総合計画審議会、栗東市行政改革懇談会に引き続き、栗東市地方創生懇談会の3つの会議において長時間に亘りご審議いただき感謝申し上げます。

いただいたご意見、ご提案については、今後十分に参考にさせていただき、事業に反映していく。

特に、進行管理シートにおいては、評価指標として分かりやすいものになるよう努めていきたい。

委員の皆さまには、引き続きご指導を賜りますようお願い申し上げ、閉会にあたっての挨拶とさせていただきます。

以上